

平成27年度 小松市立今江小学校 学校評価結果報告書

小松市立今江小学校

	自己評価				学校関係者評価	次年度に向けての改善計画				
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況						
① 組織的な学校運営	＜人材育成＞	【成果指標】	職員が学校運営への参画意識 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	各分掌において、主任のリーダーシップのもと、十分な計画・実行・検証・提案がなされている。課題があれば主任に伝えられ、解決の方策が担当者と共に検討されている。	A	今後も、組織的・協働的そして機動的に取り組んでいく。前例踏襲に終わらせず、本校児童の課題とも言える主体性の育成に向け、各部署での取組の見直しと改善を図っていく。				
	＜いじめ・不登校対応＞	【努力目標】	未然防止策の実施、組織的な問題対応 A：迅速的確に対応が行われている。 B：対応している。 C：対応に問題がある。 D：対応できていない。	日々の人間関係づくりの取組により、いじめ等の未然防止に努めている。また、面談や校長への「報告・連絡・相談」の徹底、職員間や保健室との情報共有等に積極的に対応し、早期発見および迅速的確な対応に努めている。			A	保健室来室児童の状況はどうか。身体の不調は当然であるが、今後も、保健室が、心の不調を訴えられる場、心を休めることのできる場であることを願っている。		
	＜教師の指導力の向上＞	【成果指標】	教師の研修・研究への意欲 A：「学びの集団」になっている B：研修や研究への意欲が高い C：研修や研究への意欲はある D：意欲が低く向上が見られない	教職員アンケートでは、100%が意欲的に研修や研究に取り組んでいると答えている。また、教材や指導法について、普段よりクラスや学年間で相談・情報交換がなされており、授業改善に努めていた。					A	教職員が普段から情報交換をしていくと同時に、研究や研修で学んだことを共通理解して、児童の学力向上へとつなげていく授業改善を今後も行っていく。
	＜教員研修と学校研究の充実により、教師の人間力・授業力の向上を図る。【学びの指針11条】＞	【成果指標】	意欲的に研修や研究に取り組み、自己の授業力や指導力の向上につなげている。							
② 確かな学力の育成	＜「わかる・できる」授業＞	【満足度指標】	児童の授業への満足度 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童は、教材研究をはじめ、授業改善や工夫等の授業作りに努めている。児童アンケートでは、「よかった」「できた」と達成感や成就感を感じる授業作りが推進されている。	A	学校研究を中心に、単元計画の時間の見直しや児童が考えたい課題の設定、教師の問い返し発問等、「よかった」「できた」の達成感や成就感を感じさせられる授業作りに努めていく。				
	＜学力向上＞	【努力指標】	問題や弱点の把握と解決の授業実践 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	学力調査の分析結果をもとに、学力向上対策委員会等を開き、今後の取り組みを確認。問題分析から全教職員で、「求められる力」と本校の課題を確認、今後の取り組みについて共通理解している。			A	お話ボック（図書ボランティア）で読み聞かせをしているが、子どもの様子がどんどん良い方向に向かっている。目を輝かせてお話に入り込んで聞いている。本とふれあう場、心を耕す場として、今後も楽しみながら活動していきたい。		
	＜読書活動の推進＞	【成果指標】	月8冊以上読書する児童数 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	積極的な読書活動の取り入れや児童への呼びかけによって、12月段階での平均貸出冊数は、141.5冊である。また、月8冊以上読書する児童数の割合は、9月72%、10月91%、11月85%、12月84%と8割をこえている。					A	今後も、本校の課題・対策を全教職員で共通理解し共通実践していく。基本は授業改善。基礎基本定着に向けてのドリル学習や活用力問題の活用を計画的に実施していく。より有効な個別支援の在り方も検討していく。
	＜各教科・領域等と関連した読書活動を工夫改善し、児童に望ましい読書習慣を確立する。【学びの指針8条】＞	【成果指標】	一人の児童の一月の読書量が8冊を超え、市の読書目標年間100冊達成されている。							
③ 豊かな人間性の育成	＜親和的な集団づくり＞	【満足度指標】	児童の学校・学級での満足度 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童にアンケートで「学校や学級での毎日が楽しい」と答えた児童が96%、「周りの人にやさしくしたり、親切にしたりしている」と答えた児童が94%であった。学校生活に対する高い満足と、親和的な集団作りに対する自己の貢献を、児童が実感していることがうかがえる。	A	今後も、児童が主体的に取り組む特別活動・児童会活動・委員会活動・クラブ活動等を充実させることで、児童の自尊心の向上と親和的な集団作りを推進する。				
	＜道徳教育の推進＞	【努力指標】	別様に基づく授業実践率 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	教師アンケートでは、93%が計画的に取り組んでいると答えている。また、重点項目については、他教科や特別活動とも関連づけて計画通りに取り組んでいるかを学期末にふり取り、次に活かすことができた。授業公開やホームページでの実践報告にも取り組むことができた。			A	他教科や特別活動と関連付けた道徳教育を効果的に実践し、児童の道徳性を育ていけるようにする。		
	＜道徳の時間を充実させ、豊かな体験活動とつなげることで、心に響く道徳教育を推進する。＞	【成果指標】	道徳教育年間指導計画（別業）に基づき、計画的に授業実践が行われている。							
	＜情報モラル教育の推進＞	【成果指標】	年間計画に基づく授業実践率 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	小松市の情報モラル教育システムや各学年の指導計画に基づき、指導内容を選択しながら授業をすることができた。また、調べ学習など情報モラルと関係する場面でも著作権や安全なネットの使い方について指導していたため、授業と関連付けた指導を行えた。					B	情報モラル教育システムに沿って、学年に応じた情報モラル教育を行い、これからの情報化社会を正しく生きられる知識を持たせていけるようにする。
＜情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を、教育活動全体の中で学ぶ。＞	【成果指標】	情報教育指導計画にもとづき、計画的に授業実践が行われている。								

	自己評価				達成状況	学校関係者評価 学校関係者評価者による意見	次年度に向けての 改善計画
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況			
④ 健やかな体の育成	<よりよい生活習慣の確立>	【満足度指標】	児童の健康や生活への意識	健康な体をつくるために進んで取り組んでいると答えた児童の割合が93%であった。学校保健委員会や食育授業の実践、マラソントライムなど健康な体について考える機会が多々あったことにより意識の向上が見られたと思われる。	A	学校・地域が、児童の安全を保障することは当然である。しかし、一方で、多少のことではへこたれず、自分の身を自分で守ることのできる児童に育てたい。	今後も毎週の生活チェックに加え、食育授業の実践なども継続して行い、家庭と連携していく。
	児童自身が健康や生活に関心を持ち、よりよい生活習慣や食生活づくりを推進する。 【学びの指針7条】	「生活チェックカード」等に取り組み、児童の自己管理能力を高める。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A			
	<体力の向上>	【努力指標】	課題に基づく授業の創意工夫		課題解決に向け指導法を工夫していると答えた割合が94%であった。授業導入時にコーディネーショントレーニングやシャトルボールなどに取り組み、体力を高める工夫をするなど教師が課題を意識して取り組んだことがうかがえる。	B	
	体育授業や生涯スポーツの工夫改善で、体育指導の充実を、体力の向上をめざす。	体力テスト結果をもとに、本校の児童の課題解決のための指導を工夫している。	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B			
⑤ 家庭・地域との連携	<学校からの情報発信>	【満足度指標】	保護者の満足度			保護者アンケート結果より、98%の家庭で学校からの各種便りで親子のコミュニケーションをとっていることが分かった。HPでも学校行事や各学年の行事、授業の様子を随時更新し、学校の様子を伝えていく。	A
	各種便りやホームページで積極的に保護者や地域に情報発信し、学校教育への参画を進める。 【学びの指針9・12条】	各種便りやホームページでの情報をもとに家庭でのコミュニケーションが増え、児童の学校生活がわかる。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	挨拶はコミュニケーションの第一歩であると思う。家庭・地域一体となって、気持ちの良い挨拶ができるようになっていきたい。		
	<郷土愛の育成>	【満足度指標】	児童の地域の方への感謝の割合			1学期同様、児童アンケートの結果「今江町・今江小学校が好き」は、96%と高い。各学年の地域教材・人材による授業、PTA・地域行事への積極的な参加も継続、地域の方に支えられて、ふるさとへの誇りや地域を大切にすることを育まれている。	A
	地域人材の活用と、ふるさと学習の推進、地域行事への積極的参加を促し、郷土愛の育成に努める。 【学びの指針10条】	「今江小学校」や「ふるさと今江町」を誇りに感じている。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B	町内での自転車のマナーが良くない。 家庭でも話すが、学校でも継続して指導をお願いしたい。		
<家庭学習の習慣化>	【満足度指標】	学年に応じた家庭学習達成者の割合	「10分×学年」では、94%であった。「10分×各学年+30分」の達成者は、1学期よりも約2割増加し、58.3%となった。88%の保護者も、家庭学習が習慣化していると答えており、目標達成のために連携して取り組まれていることがうかがえる。			B	学習の時間に対する意識が、高まっている。来年度も引き続き、児童も教師も学習時間を意識した計画を立てて、家庭学習週間の取り組みを実施する。
家庭学習の習慣化を、保護者と共通の目標を持って達成のために連携をする。 【学びの指針7条】	基本的な生活習慣が確立し、家庭学習が習慣化している。	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満					